

前立腺癌に対する Focal Therapy 候補者予測モデルの構築

武田利和、松本一宏、小坂威雄、大家基嗣

慶應義塾大学医学部泌尿器科学教室

【目的】前立腺癌に対する focal therapy の候補者予測モデルを構築することを目的とした。

【方法】前立腺生検前に MRI を施行した生検片葉陽性症例のうち、前立腺全摘術を施行した 111 例を対象とした。全摘標本より作製した tumor map、Prostate Imaging Reporting and Data System version 2 を用いた MRI スコアを用いて、hemi-ablative focal therapy 候補者（生検陰性側に Gleason score (GS) ≥ 7 を認めず、生検陰性側に被膜外浸潤も認めない cT1a-T3a N0M0 症例）予測因子を検討した。

【結果】111 例のうち 60 例が focal therapy の候補者であり、51 例（陰性側 GS ≥ 7 : 47 例、陰性側 pT3a+ 左右問わない pT3b: 12 例）が非候補者であった。候補者の独立した予測因子は陰性側 MRI スコア ≤ 3 、PSA であった ($p=0.004$, $p=0.044$)。温存側の腫瘍体積 0.5cc までを許容すると候補者は 84 例となり、84 例の候補者の独立した予測因子は PSA であった ($p=0.001$)。陰性側に $\geq 0.5cc$ の $\geq GS3+4$ を認めた 20 例のうち MRI スコア ≥ 4 がついた症例は 8 例 (40%) であった。

【結論】focal therapy の候補者選択に MRI、PSA が重要であると考えられた。画像診断能の向上とともに温存する前立腺に許容される癌について更なる検討が必要であると考えられた。